

改訂日：2023/02/18

## 安全データシート

### 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称：

製品名称：ジエチレングリコール（国産1級）

製品番号 (SDS NO)：D002041-2

供給者の会社名称、住所及び電話番号

供給者の会社名称：国産化学株式会社

住所：東京都中央区日本橋本町3丁目1番3号

担当部署：品質保証部

電話番号：0120-81-5930

FAX：0120-11-5930

e-mail address：cs@kokusan-chem.co.jp

緊急連絡先電話：0120-81-5930

### 2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類、GHSラベル要素

GHS分類

健康に対する有害性

生殖毒性：区分 2

特定標的臓器毒性（反復ばく露）：区分 1（腎臓、肝臓）

（注）記載なきGHS分類区分：該当せず/分類対象外/区分外/分類できない

GHSラベル要素



注意喚起語：危険

危険有害性情報

生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い

長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害（腎臓、肝臓）

注意書き

安全対策

使用前に取扱説明書を入手すること。

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。

指定された個人用保護具を使用すること。

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

応急措置

気分が悪いときは、医師の診察/手当てを受けること。

ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察/手当てを受けること。

貯蔵

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。涼しいところに置くこと。

施錠して保管すること。

廃棄

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

### 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別：

化学物質

化学的特定名：ジエチレングリコール

慣用名又は別名：ビス(2-ヒドロキシエチル)エーテル、2,2'-オキシジエタノール、2,2'-オキシビスエタノール

| 成分名        | 含有量 (%) | CAS No.  | 化審法番号 | 化学式                                           | 安衛法<br>官報<br>整理<br>番号 |
|------------|---------|----------|-------|-----------------------------------------------|-----------------------|
| ジエチレングリコール | -       | 111-46-6 | 2-415 | C <sub>4</sub> H <sub>10</sub> O <sub>3</sub> | -                     |

注記:これらの値は、製品規格値ではありません。

### 4. 応急措置

応急措置の記述

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分が悪いときは医師に連絡すること。

皮膚(又は髪)に付着した場合

多量の水と石鹸で優しく洗う。

皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合:医師の診察/手当てを受けること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合:医師の診察/手当てを受けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。

気分が悪いときは医師に連絡すること。

急性症状及び遅延性症状の最も重要な徴候症状

経口摂取:腹痛、吐き気、嘔吐、下痢、めまい、嗜眠、錯乱、意識喪失。

応急措置をする者の保護

救助者はゴム手袋と密閉ゴーグルなどの保護具を着用する。

適切な換気を確保する。

### 5. 火災時の措置

消火剤

適切な消火剤

火災の場合は霧状水、泡、粉末、炭酸ガスを使用すること。

消火を行う者への勧告

特有の消火方法

関係者以外は安全な場所に退去させる。

霧状水により容器を冷却する。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

### 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

関係者以外は近づけない。

回収が終わるまで十分な換気を行う。

適切な保護具を着用する。

着火源を取除くとともに換気を行う。

#### 環境に対する注意事項

上水源、河川、湖沼、海洋、地下水に漏洩しないようにする。

#### 封じ込め及び浄化の方法及び機材

漏れた液を密閉式の容器に集める。

残留分は乾燥砂や不活性吸収剤に吸収させ、密閉容器に集める。

こぼれた液は多量の水で洗い流す。

#### 二次災害の防止策

漏出物を回収すること。

着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。

全ての発火源を取り除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

#### 技術的対策

（取扱者のばく露防止）

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

（火災・爆発の防止）

熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。

容器を接地しアースをとること。

防爆型の電気機器/換気装置/照明機器/その他機器を使用すること。

火花を発生させない工具を使用すること。

静電気放電に対する措置を講ずること。

（局所排気、全体換気）

排気/換気設備を設ける。

（注意事項）

皮膚に触れないようにする。

眼に入らないようにする。

#### 安全取扱注意事項

使用前に取扱説明書を入手すること。

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

保護手袋/保護眼鏡/顔面保護具を着用すること。

指定された個人用保護具を使用すること。

取扱い後は手、汚染箇所をよく洗う。

取扱中は飲食、喫煙してはならない。

#### 衛生対策

眼、皮膚、衣類につけないこと。

取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

取扱い後はよく手を洗う。

### 保管

#### 安全な保管条件

換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。

施錠して保管すること。

## 8. ばく露防止及び保護措置

### 管理指標

管理濃度データなし

### ばく露防止

#### 設備対策

適切な換気のある場所で取扱う。

排気/換気設備を設ける。

洗眼設備を設ける。

手洗い/洗顔設備を設ける。

#### 保護具

##### 手の保護具

保護手袋を着用する。

##### 眼の保護具

側面シールド付安全メガネまたは化学品用ゴーグルを着用する。

## 9. 物理的及び化学的性質

### 基本的な物理的及び化学的性質に関する情報

物理状態：吸湿性粘稠液体

色：無色

臭い：無臭

融点/凝固点：-6.5℃

沸点又は初留点：245℃

爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界：

爆発下限：1.6 vol %

爆発上限：10.8 vol %

引火点：(ジエチレングリコール)(C.C.) 124℃

自然発火点：229℃

pH：知見なし

動粘度：38(20℃)

溶解度：

水に対する溶解度：混和する

溶媒に対する溶解度：エチルアルコール、アセトン、エーテルに可溶。ベンゼン、四塩化炭素に不溶。

n-オクタノール/水分配係数：log Pow-1.47

蒸気圧：2.7 Pa (20℃)

密度及び/又は相対密度：1.12

相対ガス密度(空気=1)：3.7

## 10. 安定性及び反応性

### 反応性

吸湿性がある。

### 化学的安定性

通常の保管条件/取扱い条件において安定である。

### 危険有害反応可能性

強酸化剤と激しく反応し、火災や爆発の危険をもたらす。

ある種のプラスチックを侵す。

### 避けるべき条件

火源、熱、混触危険物質との接触。

### 混触危険物質

強酸、強酸化性物質

### 危険有害な分解生成物

炭素酸化物

## 11. 有害性情報

### 毒性学的影響に関する情報

#### 急性毒性

急性毒性(経口)

[成分データ]

[日本公表根拠データ]

得られたラットLD50値(15.6, 16.6, 20.8 g/kg bw)(PATY 5th(2001))が全て区分外に該当している。

急性毒性(経皮)

[成分データ]

[日本公表根拠データ]

ウサギのLD50値: 13300mg/kg bw(DFGOT vol.10 1998)に基づき「区分外」とした。

急性毒性(吸入)

[成分データ]

[日本公表根拠データ]

ラットに4500mg/m<sup>3</sup>(ミスト)を4時間ばく露により死亡例はなかった(DFGOT(vol.10, 1998))が、このデータのみでは分類できない。

急性毒性データなし

局所効果

皮膚腐食性/刺激性

[成分データ]

[日本公表根拠データ]

ウサギを用いた皮膚刺激性試験(Draize test)の結果は軽度の刺激性(slightly irritating)であり(IUCLID(2000))、ヒトに48時間適用、あるいはモルモットに反復適用してもなお刺激性なしの結果が得られている(DFGOT vol.10(1998))。JISの分類基準により区分外とした(国連GHSでは区分3に相当)

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

[成分データ]

[日本公表根拠データ]

ウサギを用いた試験で、刺激性が認められていない(DFGOT vol.10(1998)、PATY(5th, 2001))ことから区分外とした。

呼吸器感作性又は皮膚感作性

皮膚感作性

[成分データ]

[日本公表根拠データ]

モルモットの皮膚感作性試験(Maximization test)(DFGOT vol.10(1998))、およびヒトのパッチテスト(IUCLID(2000))における感作性なし(no evidence of sensitizing effects)の結果に基づき「区分外」とした。

呼吸器感作性又は皮膚感作性データなし

生殖細胞変異原性

[成分データ]

[日本公表根拠データ]

ハムスターを用いたin vivo染色体異常試験において、腹腔内投与で染色体異常(ギャップ)の僅かな増加、経口投与では曖昧な結果であったと報告されている(DFGOT vol.10(1998))。その他には小核試験と優性致死試験の記述もあるが、動物種、投与方法、投与期間などの基本的な情報を欠き、試験データとして不十分で遺伝毒性の評価には使用できないとも記述されている(DFGOT vol.10(1998)、IUCLID(2000))ので、分類の根拠としても疑義があり分類できないとした。なお、in vitroの変異原性試験は概ね陰性結果が得られている(DFGOT vol.10(1998)、NTP DB(Access on June. 2008)、IUCLID(2000))

生殖細胞変異原性データなし

発がん性

[成分データ]

[日本公表根拠データ]

ラットに2年間の経口ばく露により、生存率の低下とともに膀胱腫瘍あるいは腎臓腫瘍の発生が報告されている(DFGOT vol.10(1998))。しかしながら、膀胱腫瘍については雄のみの試験でありデータも古い。腎臓腫瘍については同一著者がその後行ったイニシエーション/プロモーション試験の結果により、ジエチレングリコールには発がん性もプロモーション作用もないことが示された(DFGOT vol.10(1998))。その他の試験についても結論付けるのに十分なデータが見当たらず分類できないとした。

発がん性データなし

## 生殖毒性

### [製品]

区分 2, 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い

### [成分データ]

#### [日本公表根拠データ]

(ジエチレングリコール) cat. 2; DFGOT vol.10, 1998

マウスを用い交配前からのばく露による2世代生殖試験において、同腹児数の減少に加え、脳ヘルニア、口蓋裂の頭蓋顔面奇形が観察された(DFGOT vol.10(1998))。口蓋裂はハムスターの妊娠8日目の腹腔内投与でも報告されている(DFGOT vol.10(1998))。これらの影響が現れた用量では同時に母動物の体重減少、ハムスターでは死亡が見られ(DFGOT vol.10(1998))、即ち、親動物での一般毒性が発現する用量で明確な生殖毒性が記述されていることから区分2とした

催奇形性データなし

## 特定標的臓器毒性

### 特定標的臓器毒性(反復ばく露)

#### [製品]

区分 1, 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害

#### [成分データ]

#### [区分1]

#### [日本公表根拠データ]

(ジエチレングリコール) 肝臓、腎臓 (DFGOT vol.10, 1998)

ラットの反復経口ばく露による特徴的な所見として、尿酸の排泄増加とともに尿中に尿酸カルシウム結晶が形成され、腎障害(ネフローゼ)が見られたと報告されている(DFGOT vol.10(1998))。ばく露が長期に及ぶと膀胱結石も観察され、また、腎臓に比べ軽度ながら肝障害の記述も一部にある(P ATTY(5th, 2001))。しかし、これらの影響はいずれもガイダンス値範囲のカットオフ値(100 mg/kg/day)を超えたかなり高用量における所見である。一方、ヒトでは本物質のばく露に関して複数の疫学調査が実施され、それらの結果によれば、多数の死亡例、進行性の腎障害と最終的に腎不全、一部の報告では肝障害が報告されている(DFGOT vol.10(1998))。以上、ラットの反復ばく露の所見を考慮に入れ、ヒトの疫学調査の結果に基づき区分1(腎臓、肝臓)とした

誤えん有害性データなし

## 12. 環境影響情報

### 生態毒性

#### 水生環境有害性

##### [成分データ]

水生環境有害性 短期(急性)

##### [日本公表根拠データ]

(ジエチレングリコール)

魚類(ファットヘッドミノー) LC50=75200mg/L/96hr (Aquire, 2008)

#### 水溶解度

(ジエチレングリコール)

100 g/100 ml (SRC, 2005)

#### 残留性・分解性

残留性・分解性データなし

#### 生体蓄積性

##### [成分データ]

(ジエチレングリコール)

log Pow=-1.47 (ICSC, 2007)

#### 土壌中の移動性

土壌中の移動性データなし

#### 他の有害影響

オゾン層への有害性データなし

### 13. 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報  
廃棄物の処理方法

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和などの処理を行なって危険有害性のレベルを低い状態にする。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行なっている場合には、そこに委託して処理する。

汚染容器及び包装

容器は清浄して関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去する事。

### 14. 輸送上の注意

環境有害性

海洋汚染物質（該当/非該当）：非該当

特別の安全対策

乾燥状態を保つ。

MARPOL 73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送される液体物質

有害液体物質(Z類)

ジエチレングリコール

### 15. 適用法令

当該製品に特有の安全、健康及び環境に関する規則/法令

毒物及び劇物取締法

毒物及び劇物取締法に該当しない。

労働安全衛生法

有機溶剤等に該当しない製品

名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物に該当しない。

化学物質管理促進(PRTR)法(令和5年3月31日まで有効)

化学物質管理促進(PRTR)法(令和5年3月31日まで有効)に該当しない。

消防法

危険物

第4類 引火性液体第3石油類水溶性液体 危険等級 III(指定数量 4,000L)

化審法における特定化学物質、監視化学物質、優先評価化学物質に該当しない。

適用法規情報

海洋汚染防止法:有害液体物質(Z類物質)(施行令別表第1)

特定有害廃棄物輸出入規制法(バーゼル法):廃棄物の有害成分・法第2条第1項第1号イに規定するもの(平10三省告示1号)

輸入貿易管理令第4条第1項第2号輸入承認品目「2の2号承認」

輸出貿易管理令別表第1の16の項

輸出貿易管理令別表第2(輸出の承認)

### 16. その他の情報

参考文献及び情報源

Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, UN

Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 21th edit., 2019 UN

2020 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK (US DOT)

2022 TLVs and BEIs. (ACGIH)

JIS Z 7252 : 2019

JIS Z 7253 : 2019

2021 許容濃度等の勧告(日本産業衛生学会)

Supplier's data/information

化学品安全データ管理システム“GHS Assistant” Version 4.20 (<https://www.asahi-ghs.com/>)

#### 責任の限定について

本記載内容は、現時点で入手できる資料、情報データに基づいて作成しており、新しい知見によって改訂される事があります。また、注意事項は通常の手扱いを対象としたものであって、特殊な手扱いの場合には十分な安全対策を実施の上でご利用ください。

ここに記載されたデータは最新の知識及び経験に基づいたものです。安全性データシートの目的は当該製品を安全に取り扱って頂くための情報を提供するものです。ここに記載されたデータは製品の性能について何ら保証するものではありません。

ここに記載したGHS分類区分の算定根拠は現時点における日本公表データです。